

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべきその人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境でどのような形で、どのような仕事を行うのか具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	2	2 0	2	【目標】 研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 講義内容 ・ 介護保険サービス (居宅・施設) ・ 介護保険外サービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4 0	4	【目標】 必要に応じて見学を取り組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。 講義内容 ・ 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・ 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた通気に社会資源と連携
(合計時間数)	6	6 0	6	すべてレポート履修とする

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4.0	1.5 0	2.5 4	<p>【目標】人権や尊厳を守ることの重要性を学び、その背景となる考え方や制度などを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権と尊厳の保持 ○ノーマライゼーションの考え方 ○ADL、QOLの考え方 ○虐待防止、身体拘束の禁止 <p>演習 ・高齢者虐待の防止（対策ポイント）についてグループワークを行う。</p>
② 自立に向けた介護	3	0.5 0	2.5 3	<p>【目標】自立に向けた介護の重要性と意義、介護予防や重要化予防の視点について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立支援（残存能力の活用） ○本人の自己選択・自己決定
③ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<p>【目標】介護に携わる者としての人権への取り組み方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権について ○人権への取り組み ○身近な人権のこと
(合計時間数)	9	4 2	5 7	③以外すべてレポート履修とする

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修課程テキスト 1 介護・福祉サービスの理解
------------	--------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に基づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものをお理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性とは他職種との連携	1.5	0.5 0	1 1.5	<p>【目標】介護職の役割と専門性、他職種の理解と連携の方法について理解を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護職員、サービス提供責任者、介護支援専門員の業務と役割 ○他職種連携の意義と目的 ○チームケアの必要性 ○事業者内や他職種からなるチームの意義 <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して、他職種によるチームケアの関わりかた、効果についてグループワークを行う。
② 介護職の職業倫理	1	0.5 0	0.5 1	<p>【目標】専門職としての社会的責任を理解し、倫理に根ざした姿勢、支援の方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プライバシーの尊重と秘密保持義務について ○介護福祉士の倫理要領
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1 0	0.5 1.5	<p>【目標】安全を確保するための事故への備え、環境整備などリスクマネジメントの考え方や方法、感染予防対策について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護労働における安全の確保 ○安全対策、感染対策
③ 介護の安全	2	1 0	1 2	<p>【目標】介護職員の安全衛生を守るため事業所の取り組みや、こころの健康管理について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染予防 ○介護職員のこころの健康管理 ○介護職員の身体の健康管理 <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の安全衛生(感染等)を守るための予防対策についてグループワークを行う。
(合計時間数)	6	3 0	3 6	すべてレポート履修とする

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修テキスト1 介護・福祉サービスの理解
------------	-----------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限しておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務についてその概要のポイントを列挙できる			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	3	0.5 0	2.5 3	<p>【目標】制度が創設された社会的背景と介護保険制度の意義について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護保険制度創設の背景と目的 ○ 介護保険制度のしくみ ○ 介護サービスの種類
②医療との連携とリハビリテーション	3	0.5 0	2.5 3	<p>【目標】医療と福祉との連携のあり方について、医療職が行う医療行為と介護職が行うことができる医療行為の境界線をしっかりと認識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健医療サービスと福祉サービス ○介護職が行える医療行為 ○リハビリテーションの過程 <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療行為とそれ以外の行為との境界線について、グループワークを行う。
③ 障がい者総合支援制度及びその制度	3	0.5 0	2.5 3	<p>【目標】障がい者自立支援制度の社会的支援システムとサービス内容、利用の流れ等について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障がい者自立支援制度の基本的な構造 ○ 障がい福祉サービスの種類と内容 ○ サービス利用、支給決定のプロセス ○ その他の制度（生活保護制度、成年後見制度など）
(合計時間数)	9	1.5 0	7.5 9	すべてレポート履修とする

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修課程テキスト 1 介護・福祉サービスの理解
------------	--------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	1.5 0	1.5 3	<p>【目標】コミュニケーションの意義、目的、役割からコミュニケーションの基本技術について学習し、コミュニケーション能力を高めて人間関係づくりに役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーションの意義、目的、役割 ○ コミュニケーションの技法 ○ 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションについてグループワークを行う
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5 0	1.5 3	<p>【目標】記録の意義から効率的な記録の記載をはじめ、報告、連絡、相談の意味や意義、カンファレンスや事例検討会、担当者会議の留意点について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護に関する記録の種類 ○ ケアカンファレンス、介護経過記録、事故報告書、ハットひやり ○ 介護サービスにおける報告、連絡、相談 ○ サービス担当者会議 <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例をもとに個別援助計画の作成をグループワークにておこなう
(合計時間数)	6	3 0	3 6	すべてレポート履修とする

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修課程テキスト 2 コミュニケーション技術と認知症・障がいの理解
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(6)老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うところとからだの変化と日常	3	1.5 0	1.5 3	<p>【目標】老化の理解を通して、高齢者の介護における基本的な留意点を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 老化の理解 ○ バイタルサイン ○ 老化による日常生活影響 <p>演習 ・ 老化による日常生活への影響を改善、対処する方法などについてグループワークを行う</p>
②高齢者と健康	3	1.5 0	1.5 3	<p>【目標】高齢者に多い疾患、生活習慣病や老化に伴う疾患などについて学習し日常における高齢者の生活支援の留意点を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の多い病気と日常生活上の留意点 ○ 代表的な生活習慣病（高血圧症、心疾患脳血管疾患） ○ その他の生活習慣病（糖尿病、腎臓病、肝臓病） <p>演習 ・ 老化による疾患別の気づきのポイントや対応方法についてグループワークを行う。 (嚥下障がい時の対応、脱水、廃用症候群を予防するための対応など)</p>
(合計時間数)	6	3 0	3 6	すべてレポート履修とする

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修課程テキスト 2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障がいの理解
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(7)認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
0 認知症を取り巻く状況	1	0.5 0	0.5 1	<p>【目標】 認知症の高齢者の行動や心理症状の理解をし、残された能力や意欲などに着目して、共感的な姿勢で関わるケアについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 残されている意欲や能力に着目した介護サービス ○ 認知症の中核症状と行動・心理症状
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	0.5 0	1 1.5	<p>【目標】 認知症の診断等で用いられる評価法をはじめ、障がいの状態や原因となる疾患などの医学的な理解とともに、予防のための対策や健康管理について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物忘れ、せん盲、うつ状態 ○ 認知症の評価スケール ○ 認知症による障がい(記憶障がい、認知機能の障がい) ○ 認知症の原因となる主な疾患 (アルツハイマー病、脳血管性認知症、ピック病など)
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1.0 0	1 2	<p>【目標】 中核症状と周辺症状の具体的な現れ方や症状、認知症高齢者とのコミュニケーションや基本的なケアについて理解し、介護職員としての基本的なケア方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中核症状と周辺症状 ○ 主な BPSD(徘徊、攻撃的行為、妄想) ○ 認知症の人とのコミュニケーション(受容的態度、簡潔な受け答え等) ○ アクティビティ <p>演習 ・ 認知症の人とのコミュニケーションについてグループディスカッションを行う。</p>
④家族への支援	1.5	1.0 0	0.5 1.5	<p>【目標】 認知症高齢者を支える家族への支援を学習し、家族の思いを理解し、介護職員としてどのように支えていけるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族の介護負担(老老介護、家族介護者へのエンパワーメント) ○ 家族のレスパイト(訪問介護、デイサービス)
(合計時間数)	6	3 0	3 6	すべてレポート履修とする

使用する機器・備品等	介護職員初任者研修課程テキスト 2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障がいの理解
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な肝 g 萎え方について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
0 障がいの基礎的理解	1	0.5 0	0.5 1	<p>【目標】 障がいの概念、障がい者を支える制度や仕組みについて学習し、障がい者への介護にあたり、障がいに関する基礎的な理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいの概念 ○ 障がい者福祉の基本理念 ○ 個人の尊重、ノーマライゼーション、QOL の向上 ○ ICF の考え方
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5 0	0.5 1	<p>【目標】 視覚障がいや聴覚障がいをはじめ、内部障がい、精神障がい等について、各々の疾患や症状、介護における留意点について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障がいの種類 (視覚障がい、聴覚・平衡機能障がい、言語・咀嚼機能障がい、肢体不自由、内部障がい、知的障がい、精神障がい、高次機能障がい、発達障がい) ○ 障がい者への介護の留意点 ○ 障がいの受容
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5 0	0.5 1	<p>【目標】 家族の心理や障がい受容、支援にあての留意点について学習し、障がい者・児だけでなく、家族にも寄り添うことが大切な事を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障がい者・児の家族の心理 ○ 障がい受容 ○ 家族への支援 <p>演習 ・障がい受容と社会復帰の観点から介護職員として家族、利用者とのように接し、どのような役割を求められるかについてグループディスカッションを行う。</p>
(合計時間数)	3	1.5 0	1.5 3	すべてレポート履修とする

使用する機器・備品等	護職員初任者研修課程テキスト 2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障がいの理解
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能にかんする知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護の基本的な考え方	3.5	3 0	0.5 3.5	<p>【目標】介護の理念や法的根拠、介護を行う上での視点について考え利用者主体とする介護の意味を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護に関する専門的知識、技術の必要性 ○ 個別支援の重要性 ○ 医療サービスと介護サービスに求められる役割の違い ○ 利用者主体の介護 ○ 生活の質(QOL)を高める視点の大切さ <p>演習 ・医療サービスと介護サービスに求められる役割の違いについてグループディスカッションを行う。</p> <p>すべてレポート履修とする</p>
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3.5	3 0	0.5 3.5	<p>【目標】人のこころの働きや変化を理解し、記憶や感情のメカニズム、老化や障がいの受容、適応について学習し、尊敬を守る介護は提供できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 記憶のメカニズム(長期記憶、記憶と加齢) ○ 感情・意欲・生きがい <p>演習 ・意欲を高める生きがいを感じるように介護に携わる人間が、どのように関わるべきかグループディスカッションを行う。</p> <p>すべてレポート履修とする</p>
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	3 0	1 4	<p>【目標】人体各部の名称、動きに関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、こころとからだを一体的に捉え支援を展開できるように理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人体各部の名称、動きに関する基礎知識 ○ ボディメカニクスの活用 ○ 観察による状態の違いに気づく視点 <p>演習 ・高齢者のこころとからだの変化の違いに対する気づきのポイントについてグループディスカッションを行う。</p> <p>すべてレポート履修とする</p>
④ 生活と家事	4	3 0	1 4	<p>【目標】家族援助に関する基礎的知識と生活支援について学習し、多様な生活習慣・価値観について適切な対応、援助ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な生活習慣、生活歴、価値観 ○ 残された能力を活用し、生活能力を高める介護の知識・技術 ○ 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 <p>演習 ・それぞれの支援(調理、買物、衣服の洗濯など)で確認、配慮することについてグループディスカッションを行う。</p> <p>すべてレポート履修とする</p>

⑤ 適な居住環境整備と介護	6.5	6 0	0.5 6.5	<p>【目標】快適な居住環境に関する基礎的知識を学び、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 快適な居住環境に関する基礎知識 ○ バイアフリー ○ 住宅改修、福祉用具 <p>演習 ・家庭内に多い事故について事例を示し、グループディスカッションを行う。</p> <p>すべてレポート履修とする</p>
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5.5	4.5	1	<p>【目標】基本的な介護技術を身につけ自立支援の視点で介護ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○ 身体状況に合わせた衣服の選択 ○ 着脱、身みじたく、整容行動 <p>演習 ・衣服を選ぶ時の配慮事項と着脱の準備の留意点についてグループディスカッションを行う。 ・衣服着脱の介護について演習を行う。</p>
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5	6	0.5	<p>【目標】利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、残存能力の活用、ボディメカニクスの基本原則、移乗介助の具体的な方法について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 移動・移乗に関する基礎知識 ○ 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ○ ボディメカニクスの基本原則 ○ 移乗介助の具体的な方法（車椅子への移乗の方法、ベッド・車椅子間の移乗、様式トイレへの移乗など） ○ 移動介助（車椅子、歩行器、つえ等） <p>演習 ・移動の介護・移乗の介護に関する演習を行う</p>
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5	6	0.5	<p>【目標】食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具の活用方法と食事形態、からの仕組みについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食事に関する基礎知識 ○ 食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム ○ 口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防 <p>演習 ・食事の介護に関連する演習を行う。</p>
⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	6	1	<p>【目標】入浴、清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴介助の方法などについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ○ 羞恥心や遠慮への配慮、体調の確認 ○ 全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） <p>演習 ・入浴の介護、清拭保持に関する演習を行う</p>

⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	6	1	<p>【目標】排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備と排泄用具の活用方法、介助方法について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 排泄に関する基礎知識 ○ さまざまな排泄環境整備と排泄用具の使用方法 ○ プライド、羞恥心、プライバシーの確保 ○ 一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ○ 便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫） <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄介護に関連する演習を行う。
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4	3	1	<p>【目標】睡眠を取り巻く環境整備、安楽な姿勢やじょく蒼予防について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 睡眠に関する基礎知識 ○ 安眠のための介護の工夫、環境の整備 ○ 安楽な姿勢、じょく蒼予防 <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安楽な姿勢・じょく蒼予防について演習を行う
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	7	6	1	<p>【目標】ターミナルケアの考え方、介護職員としての対応のしかた、留意点、他職種との連携について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 苦痛の少ない死への支援 ○ 介護従事者の基本的態度 ○ 他職種間の情報共有の必要性 <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅ターミナルケアに必要な要件についてグループワークを行う。
⑬介護過程の基礎的理解	5	3.5	1.5	<p>【目標】介護課程の目的、意義、展開等を理解し介護過程を踏まえ、目標に沿った計画的な介護を行えるようチームで介護課程をと展開するための情報の共有の方法、各職種の役割について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護課程の目的と意義、展開 ○ 介護課程とチームアプローチ
⑭総合生活支援技術演習	5	4	1	<p>【目標】生活場面、障がい状況の異なる事例を通し、具体的な介護内容および介護の留意点について話し合い、適切な支援技術を展開できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 介護課程の基本的理解 ○ 利用者理解の基本姿勢 ○ 介護課程の流れ ○ 事例検討 <p>演習</p> <p>生活場面、障がい状況などの異なる事例を通し、今後の支援の方向性について検討し、利用者の心身の状態に合わせた介護を提供できるようにグループワークを行う。</p>
(合計時間数)	75	63 45	12 30	

<p>使用する機器・備品等</p>	<p>介護職員初任者研修テキスト 3 こころとからだのしくみと生活支援技術</p> <p>各種車いす、テーブル、足台、防水布、エプロン、いす（背もたれのあるもの）食器（食べやすく工夫されたもの）、ビニール、タオル、ストロー、スプーン、フォーク、はし、とろみ剤等、ポータブルトイレ、便器、尿器、各種おむつ、おむつカバー、パジャマ、寝巻き、ベッド、シャワーチェア、手すり、洗面器、バスボード、ヘアブラシ、くし、シャンプー、リンス、石鹸、保湿クリーム、つめ切り、ドライヤー、バケツ、洗面器、陰部用洗浄器、ドライシャンプー、歯ブラシ、コップ、受水盆、安全カミソリ、電気カミソリ等、マットレス、マットレスパッド、枕、枕カバー、シーツ、防水シート、自助具、吸いのみ、おしぼり、簡易浴槽、ゴム手袋、クッション</p>
-------------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 130

商号又は名称： 社会医療法人医真会

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行なうとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	2	2		<p>【目標】在宅、施設のいずれの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、応対の態度等の礼節を含む）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。研修を通じて学んだこと・言語化させたうえで利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。</p> <p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶこと ・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護課程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチ重要性等）
②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	2	2		<p>【目標】終了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や具術の体系に再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。最新知識の付与と次のステップ（職場環境への早期対応等）へ向けての課題を受講者が認識できるように促す。</p> <p>講義内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的に学ぶこと ・研修終了後における継続的な研修についてイメージできるような実例を紹介
(合計時間数)	4	4		
	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。